

熊市歯発第 14 号
令和 5 年 4 月 14 日

会 員 各 位

熊本市歯科医師会
会長 宮 本 格 尚
(学術委員会扱い)

令和 5 年度 熊本市歯科医師会第 1 回学術講演会のご案内

「顎関節症の本質の再考について ～保存療法と外科的療法の境界について～」

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、京都第二赤十字病院歯科口腔外科部長の猪田浩理先生をお招きし、下記日程にて講演会を行います。

我々開業医は口腔内の様々な疾患に対して対応していく必要がありますが、顎関節に関しては実際に目で見る事が出来ませんので、問診や X 線・CT 画像、下顎の動きなどから生じている問題を想像し対処していく必要があります。保存療法で対応可能なのか、専門医による外科的な対応が必要なのかの見極めは難しく、経過観察にしている症例も多いのではないのでしょうか？

猪田先生は顎関節の様々な疾患に精通していらっしゃいますので、必ず今後日々の診療へのヒントが得られると思います。

大変興味深い内容ですので、スタッフの皆様も是非一緒にご聴講ください。

参加の際は F A X にて申し込み後、当日は日歯研修カードをお持ちください。

記

日 時 : 令和 5 年 6 月 3 日 (土) 15:00～18:00

場 所 : 熊本県歯科医師会館 3 階市会議室 (予定)

講 師 : 京都第二赤十字病院 歯科・口腔外科部長 猪田浩理 先生

【抄録】

顎関節症の病態については、症型分類の周知など、その内容については多くの歯科医師に共有される知識になってきました。一方で、症状の改善が見られないまま経過観察になってしまう症例も散見され、主症状である痛みや開口障害の残存は、患者さんにとって、日常生活の質の低下を招きます。顎関節症の外科的治療は、テーマ性としては狭義ですが、開口障害を呈する症例では、適応症を見極めた上で、関節腔内の洗浄、剥離作用をもたらすことで、症状改善が期待できます。また、術前診査における MR 画像情報からは、詳細な病態把握が可能です。

私の所属する施設では、顎関節の外科療法に関する診療環境を整えつつ、日々の模索を行っています。「顎関節症」は多岐な病因が重なり発症することが多く、症候群としてとらえる必要がある疾患とも考えられます。今回は所属施設で経験した症例などを通して、顎関節症の診断と治療の多様性について「深掘り」を行います。また、顎関節症以外に、顎関節の下顎頭や滑膜組織から生じる軟骨関連疾患や、近年に治療例が増えつつある高齢者の習慣性顎関節脱臼症への対応も併せて供覧をさせていただきます。

【講師略歴】

略歴

1992 年 福岡県立九州歯科大学歯学部卒
同年 滋賀医科大学医学部附属病院歯科研修医
1994 年 公立湖北総合病院(現 長浜市立湖北病院) 歯科口腔外科医長
2002 年 滋賀医科大学医学部歯科口腔外科学講座 助教
2007 年 京都第二赤十字病院 歯科・口腔外科 副部長
2009 年 京都第二赤十字病院 歯科・口腔外科 部長

資格

医学博士(滋賀医科大学)
日本口腔外科学会専門医
日本顎関節学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)

外部役職

京都地方裁判所 専門委員(医療分野担当)

F A X 申込書 申し込み締め切り日：令和5年5月29日(月)

熊本市歯科医師会事務局行(学術委員会) F A X：3 4 4－9 7 7 8

歯科医院名 _____

会員氏名 _____

歯科医師()名、スタッフ()名